建築文化賞

景観に配慮した建築物

キッコーマン野田本社屋

建 築 主 ：キッコーマン株式会社
設　　計 ：(株)石本建築事務所
施　　工 ：(株)竹中工務店東関東支店

所 在 地 ：野田市野田250番地

事務棟と「水の庭」　（撮影：ＳＳ東京　北澤治夫）

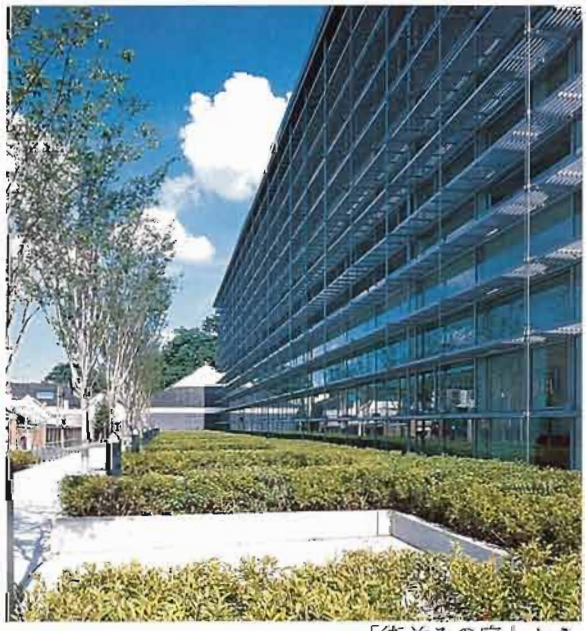
醤油造りで知られた野田市の「キッコーマン」が、一昨年旧仕込蔵の一部を残して近代建築の本社屋を落成した。本社機能に加えて国際食文化研究センターを併設し、多くの来客のための迎賓館的な役割にもかなりの比重が置かれた複合施設である。

敷地面積１４,９５５㎡、建築面積５,１１９㎡、地下１階・地上４階で近隣の低い家並みも意識したゆとりの空間である。

集会空間や街並みの庭は市民の利用にも提供され、たっぷりと広いフロントヤードは街の小広場。この建築計画では、永い歴史を刻んできた同社の、街に開かれた経営姿勢が上位の与件であったと聞く。

醤油は日本文化を代表する伝統産業であると同時に、今や世界を市場とする近代産業でもあって、その本社屋には当然ながら省エネ対策や情報装備を備えた前衛性も重要だ。その点「光・熱・風・水という自然エネルギーを有効利用した環境負荷低減型オフィス」を目指して、大きな窓面からの自然採光、日射熱や自然通風、そして雨水などの有効利用に、近代ビルとしての今日的配慮が尽くされている。

かたや、この社屋には伝統ある街に建つ景観上の難問も課せられていた。古い家並みへの調和か、新しい都市への転進のシンボルか、小都市には影響の大きい規模の建築なので、未来の都市景観形成への公共性が求められる。その成果をめぐっては異論もあったが、野田市の活性化を願う建築主の心意気と、その実現に傾注した設計者及び施工者の努力は十分に評価された。



「街並みの庭」から

（野口瑠璃）